

京都市コロナ感染防止徹底月間（第2弾） ～ 再拡大防止に向けた実践 ～

全国的に感染が増加する中，京都市においても，感染者の増加が見られ，急速な感染再拡大につながるおそれがある。

9月の「感染防止徹底月間」で各局区等が培ったノウハウを活かし，様々な団体との顔の見える関係，対面を含むあらゆる機会・媒体・ネットワークにより，市民・事業者に注意を呼びかけ，日々の生活や仕事の中で，改めて感染防止に向けた実践を行っていただくように促していく。

【期間】 11月17日から年末まで

I 感染拡大防止のための注意喚起

改めて、認識・実践する基本的な感染症対策 <行動>

- 3つの基本（マスクの着用，手洗い，身体的距離の確保）の実践
- 3密（密閉空間・密集場所・密接場面）を避けること
- 大声での会話や歌唱を伴う宴会・飲み会を控えること
- 発熱，風邪の症状があるなど，調子が悪いときは，無理せず休むこと
- ガイドラインを遵守していない店舗の利用の自粛
- 「京都市コロナあんしん追跡サービス」等の活用
- 感染された方や医療関係者等への誹謗中傷は絶対に行わないこと

新たに、注意喚起・実践する感染症対策 <行動>

- ・ 寒い環境でも換気の実施 [新型コロナウイルス感染症対策分科会提言]
 - 機械換気による常時換気を
 - 機械換気が設置されていない場合は、室温が下がらない範囲で**常時窓開け**
(窓を少し開け、室温は18℃以上を目安！)
- ・ 適度な保湿（湿度40%以上を目安） [新型コロナウイルス感染症対策分科会提言]
- ・ 発熱症状などのある方は、まずは地域の診療所（かかりつけ医）に電話相談
- ・ 高齢者インフルエンザ予防接種の活用

感染リスクが高まる「5つの場面」の注意喚起 <場面>

- ・ 『飲酒を伴う懇親会等』 『大人数や長時間におよぶ飲食』
『マスクなしでの会話』 『狭い空間での共同生活』 『居場所の切り替わり』
の場面は、感染が起きやすいので注意が必要

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



Ⅱ 事業者への周知啓発

飲食店等における感染拡大予防ガイドラインの遵守・徹底

- ・ 市内飲食店約1万8千店に対し、改めて、感染拡大予防ガイドラインの遵守・徹底を求める。特に、換気への注意を要請する。
- ・ あわせて、ガイドライン推進宣言事業所ステッカーの導入を求める。
（「京都Go To Eatキャンペーン」の食事券利用店舗の登録）

接待を伴う飲食店への啓発

- ・ 京都府警、京都府と連携し、市内に約860施設ある社交飲食店等※の管理者に対し、感染防止対策の啓発を実施

※ キャバレー、スナック、パブ、キャバクラ、ラウンジ等